

No.20 「日本を10万分の1 に縮小したら—？」 2

人生に「五計」ありといわれる。生きていくための生計、身を立てるための身計、家族を持つてからの家計、老いていくための老計、死んでいくための死計である。たいてい誰もが家計までは考える。もっとも、最近は結婚しない男女が増えているので、家計を考えることもなく生計、身計だけで世を終わる人間も多いようであるが——。

20

さて、老計、死計とは聞きなれない言葉であるが、老いることも死ぬことも避けられない以上、如何により良く老い、死んでいくかを考えることは必要である。いいかえれば、人生の「五計」は老計が重要であり、死計をもって完結するのである。

最近の新聞記事を見ると、どうにも老計を取り違えているのではないかと思われるような社会的地位の高い「政治家」「高級官僚」「裁判官？」などの老壮年者の犯罪、汚職が日常茶飯事になっている。正に「死計」どころか、「死刑」にしてやりたいような輩ばかりである。

さて、「10万分の一の日本」であるが、今回は社会的な面を取り上げてみた。人口1276人（1世帯2.7人として473世帯）のうち、労働人口646人である。国内総生産額は53億円で、（労働人口1人当たり820万円）、税金を5億円納めている。貯蓄額は146億円で1世帯あたり3000万円である。勤労世帯だけに限れば、年間収入平均額は710万円、貯蓄額1360万円、ローン等の負債額580万円である。異常なほどよく働き、よく貯蓄をする人々である。

所得分布を見ると、

年収500万未満の世帯が	36%	170	世帯、
500—900万未満	40%	189	ク
900—1500万未満	20%	95	ク
1500万以上	5%	24	ク

所得格差は比較的に少なく平均している。ただし、統計上に出てこないが、3000万以上の高額所得者が10人（3%）近くいる。

住宅総数は500戸を超えており、平均的には1世帯1.13戸の住宅を保有しており、30戸の住宅が余っている。（平均的には1968年に1世帯1住宅は達成されている。）

その結果、物質生活は比較的豊かである。電化製品の普及率はテレビ99.5%、エアコン88%、自動車87%、パソコン56%となっている。

食生活でも年間に肉類29kg、魚類35kg、乳製品92kgを摂取している。半世紀前に比較して、乳製品18倍、肉類13倍、魚類2倍である。前号でも指摘したように食生活でも豊かな?「飽食」の時代を迎えている。

労働職場を産業別に見ると、農林漁業などの1次産業に従事する者が33人(5%)、製造業など2次産業従事者が200人(29%)、サービス業など3次産業従事者が407人(60%)、公務員が国、地方を含めて42人(6%)となっている。

この半世紀で最も衰退したのは農業である。1950年代初めは45%を占めていた農業従事者がこの半世紀で5%に激減している。その分サービス業が30%から60%に倍増している。基幹産業である1次産業の農業従事者よりも公務員のほうが多いのである。6%の数字は特殊法人等の準公務員?をいれると更に多くなる。この面からも小さな政府を目指す「真の構造改革」は必要である。

そのほか永住を含めた登録外国人が24人である。

教育水準は高校卒98%、大学卒50%となり、半世紀前に比較して高卒で2倍、大卒で5倍に増加している。ただし、半世紀前には殆んどなかった「不登校」中学生が全中学生の2.5%と増加しつつある。

平均寿命は男77.6才、女84.6才である。平均寿命が50才を超えたのはほぼ半世紀前であるから、この50年間の医療の進歩は目覚ましいものがあるといえよう。ただし、「健康寿命」はこれより6才程度低い。つまり、平均して6年間は「寝たきり」または「入院中」の老人が多いことを示している。

*食物,エネルギーの1人当たり消費量 「地球温暖化を考える」宇沢 1995

	先進国	途上国 /1人/年
穀物消費	716kg	246
乳製品	320kg	39
肉類	61kg	11
木材	880kg	339
一般木材	213kg	19
紙パルプ	150kg	10
ガソリン	4.3t	0.45
石油換算		
電力	7300キロワット時	600
ガス	1200kcal	60